

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 12-007

PDCA	事務事業名	アイプラザ半田管理運営事業	部課等名	市民経済部 観光課 観光担当	担当 内線等	東村 327	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第6章 自立した地域経営のまち 節： 第1節 行財政運営とサービスの向上 基本施策： 1. 行政運営 単位施策： (2) 市民サービスの向上 個別施策： ②公共施設でのサービスの向上					
	根拠法令等	—					
	対象・目的	アイプラザ半田は、半田市観光協会が指定管理者となっており、本市の観光拠点施設として多くの観光客に観光情報を発信するとともに、市民の教養・文化の向上、健康増進及びレクリエーションの場として、貸館事業を実施する。					
	目的を達成するための手段・活動内容	民間事業者の柔軟な発想とノウハウを活用した指定管理者制度による、管理・運営を行う。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①講堂利用回数	282	80	88	回	
		②小ホール利用回数	479	178	260	回	
		③会議室利用回数	5,431	2,152	1,622	回	
		事業費	54,477	40,012	43,182	千円	
		人件費	2,498	3,105	3,703	千円	
		総事業費	56,975	43,117	46,885	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①利用1回あたりの管理運営費	9,201	17,891	23,799	円/回		
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①全体利用者数	実績値	287,746	108,811	89,758	人
			目標値	265,000	145,000	289,000	
		②施設使用料金	実績値	1,558	485	453	万円
			目標値	1,450	815	1,560	
③貸室稼働率		実績値	36.2	28.8	19.3	%	
		目標値		37.0	36.5		
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある		
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	事業の評価・課題	D コロナ禍における、令和2年3月4日～5月31日までの臨時休館や、貸館利用人数制限、閉館時間の短縮等により、利用者数等は減少したが、談話室における「映画GON」や「半田運河」のPRコーナー（パネル展示等）を設置するなど、来館者に対する観光PRの強化を図った。 また、閉館後の消毒作業など、新型コロナウイルス感染防止対策を適切に実施した。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 令和3年度については、講堂がコロナワクチン接種会場となるなど、一定の利用が見込まれる。引き続き、半田観光の魅力をPRする企画展を開催するなど、観光情報の発信強化と、観光立寄者数の増加を図る他、貸館利用者数を増加させるためのPR活動、感染防止対策を徹底しながらの施設運営を行っていく。					
	令和3年度の目標		目標値	単位			
		①全体利用者数(新型コロナウイルスの影響がない場合)	298	千人			
		②使用料(新型コロナウイルスの影響がない場合)	1,573	万円			
		③稼働率(新型コロナウイルスの影響がない場合)	37.5	%			